

月信

GOVERNOR'S
Monthly Letter



Rotary

International
District

2740

VOL. 3

2025.9



2025-26 年度 ガバナー月信



中島 潔 作「光る風の色」

国際ロータリー第2740地区 2025-26年度 ガバナー 石坂 和彦



よいことのために手を取りあおう

2025-26年度 国際ロータリー会長のメッセージ

未来へ^{つむ}紡ごう ロータリーの価値！

2025-26年度 国際ロータリー第2740地区 地区テーマ

Index

Governor's message No.3	1
地区幹事挨拶	2
インターアクト地区大会報告	3
米山記念奨学委員会視察・研修旅行報告	5
米山記念奨学生 研修旅行報告書	7
ガバナー公式訪問クラブ報告	14
第2740地区 職業奉仕委員会新聞	16
地区大会のご案内	17
からつ勘右衛門（かんね）話・編集後記	裏表紙

※誤字脱字以外は寄稿者の意向を尊重し原文のまま掲載しております

Governor's message No. 3

“さあ 唐津地区大会へ！” 2025-26年度 ガバナー 石坂 和彦

子供のころの9月は、さわやかでした。長い夏休みをおえて、友達と会えることを楽しみにしていた始業式。懐かしく思い出されます。今年は熱暑猛暑です。熱中症対策が不可欠です。

この9月は、“基本的教育と識字率向上”月間です。日本独自の月間テーマは、“ロータリーの友月間”となっています。

いま公式訪問の真最中です。毎日大きな勇気と力をロータリアンの皆様方より頂いております。皆様方の温かいお気持ちに心より感謝いたしております。各クラブを訪問させていただいて特に感じていることは、やはり「クラブはいいなー」という事です。笑顔があります、活気があります、支え合う心があります。ホッとする安らぎがあります。楽しさに満ち溢れています。いよいよ来月10月は、クラブ公式訪問を終えて、地区大会が開催されます。ホストクラブである唐津ロータリークラブをはじめ、コホスト第4グループのロータリークラブの皆様が、魂を込めて企画・準備して頂いてます。ロータリーの情熱と心意気を肌で感じます。

地区大会テーマ『若者が紡ぐ、世界をつなぐ希望の絆』のもと開催されます。青少年が主体的にかかわり、青少年に進行も担っていただきます。斬新なアイデアで、会の進行を盛り上げてくれることを期待しています。若者・青少年の熱気が感じられる地区大会でもあります。主役は、地区大会参加者全員です。

大会当日は、様々なプログラムが用意されています。基調講演は、2016～2017年度ロータリー財団奨学生であった片岡一生さんをお願いいたしております。わざわざこの地区大会のために、バン格拉デシュから駆けつけていただきます。テーマは、『世界からみたロータリー』です。実際に体験されたお話は、私たちに新たな感銘を与えてくれると思います。講演後のパネルディスカッションもロータリーとはなんだ！の真剣な思いがブレイクすることと思います。

総合的な進行を担っていただく新しい世代にとって、大舞台での体験は、彼らの将来にとって貴重なものとなるでしょう。そして私たちロータリアンも、新たなエネルギーを感じると思います。人づくりはロータリーの未来を紡ぐエネルギーです。年に一度のロータリアンの、ロータリーファミリーの祭典です。会員皆様と共に喜びを分かち合いたいと思います。

唐津でお会いしましょう！！懇親会では大いに楽しみましょう！！弾けましょう！！年に一度のロータリアンの祭典です。共感・物語・音楽があふれる地区大会は、必ず参加して良かったと思っていただけたと思います。

『未来へ紡ごう ロータリーの価値！』

地区幹事挨拶

国際ロータリー第2740地区
2025-26年度 地区幹事

中島 幸利 (唐津 RC)



国際ロータリー第2740地区 2025-26年度 地区幹事を務めさせていただきます、第4グループ唐津ロータリークラブ所属の中島幸利と申します。地区幹事という大役を前に身の竦む思いを覚えておりますが、パストガバナーをはじめとする諸先輩方、地区役員、歴代地区幹事の皆様のご指導を仰ぎながら力の限り務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

さて、私は2011年7月入会ですのでロータリー歴も長いわけではございませんが、千種会、源流の会、その他の資料により自分なりにロータリーについて学んできました。そうした中、故辻幸徳ガバナーエレクトから「地区幹事をしてもらいたい」というお話を頂き今日に至りました。辻エレクトは「この出会いに感謝して、ロータリーの今を楽しもう」というテーマを掲げておられました。その心は「ロータリーは様々な活動を行っているので、地区の委員会等に積極的に参加して、地区の交流の中からロータリー活動を学ぼう」ということにありました。辻ガバナーノミニデジグネートの時から、私も本格的に地区の各委員会の活動等に参加させて頂くことになり、その活動の幅の広さと深さに驚くとともに、各委員会の皆様の文字通り献身的な活動への取組みに触れ、辻エレクトの思いに改めて感動を覚えました。

残念ながら志半ばにして辻エレクトは病に倒れられましたが、当年度のガバナーをお引き受け頂きました石坂和彦ガバナーの強力なリーダーシップのもと、「地区チーム研修セミナー」「PETS」「地区研修・協議会」を無事に終えることができました。担当して頂いた第4グループの各クラブには、「石坂ガバナーには、ただただ感謝しかない」という思いで準備を進めて頂きました。また、ガバナー補佐、地区委員長、地区役員の皆様には格別のご指導を頂き誠にありがとうございました。

2025-26年度石坂ガバナーの基本方針は、「未来へ紡ごう ロータリーの価値！」“一円融合”です。会員の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

インタラクティブ地区大会報告

インタラクティブ委員会委員長 川島 雄輔 (唐津 RC)

2024年7月26日(土)、佐賀市のグランデはがくれにおいて、国際ロータリー第2740地区2025-2026年度インタラクティブ年次大会が開催されました。

大会テーマは「『点と線』手と手をつなげばあったかばい」で、便利さの追求によりIT化や生成AIの台頭が急速に進む世の中に対して一石を投じ、人と人との触れ合いも交えたコミュニケーションの大切さを訴えかけるものでした。

冒頭、佐賀女子高等学校の永渕ほのかさんの澄んだ歌声、堂々とした立ち姿による国家独唱により、凜とした心地よい空気の中、本大会は幕を上げました。

基調講演は佐賀西ロータリークラブのロータリアンであり、元佐賀テレビアナウンサー、現佐賀県議会議員でいらっしゃる一ノ瀬裕子さんのお話でした。

「想いをつなぐ～点から線へ、そして社会へ」の演目のもと、スライド資料を一切を使わず、手元の資料すらほとんど見ずに、50分近く淀みなく話をされていました。まずはそこに、さすが元アナウンサーさんだなあと感心しました。内容も、小学校の読み聞かせボランティアからどんどんと輪が広がって大きなイベントになっていった話であったり、「生理の貧困」に向き合い、膨大なアンケート調査を経て県内各所の女性トイレに生理用品が置かれるようになるまでのお話だったり、インタラクティブに身近で分かりやすいものでした。「佐賀のために何かをしたい」との想いに真っ直ぐで、非常にアクティブで、会場にいた皆がとても力をもらいました。

佐賀女子高等学校ダンス部のダンスで盛り上がり、昼食を挟んだあと、午後からは3会場に分かれて分科会が開かれました。

第1分科会「未来へ乾杯」～今、大切にしたいこと～では、NPO法人桃李塾副塾長の吉木先生が、インタラクティブ達に熱く人間や人生の素晴らしさを語られました。見学していたロータリアンの方も「素晴らしい」「是非うちの社員にも聞かせたい」と絶賛されていました。

第2分科会「伝統工芸を未来につなぐ」では、参加したインタラクティブ達が、佐賀錦のキーホルダー作りに挑戦していました。実際に触れ、自分だけのキーホルダーを作ることで、伝統工芸の素晴らしさを生で実感していたようでした。

第3分科会「レクリエーション×交流＝つながる未来」では、クイズで福祉や国際理解の知識を深めながらも、他クラブのインタラクティブ同士がチームとなれるレクリエーション競技で大いに盛り上がっていました。普段から奉仕活動をしている同志たちだからこそ、すぐに打ち解けられていたのではと思います。

いずれも人と人との触れ合いを交えたコミュニケーションの大切さを考える契機となる、素晴らしい分科会だったようです。

少数ながらも立派にホストをやり遂げた佐賀女子高等学校インタラクティブクラブの皆様、そして同クラブを援助し、大会を成功に導いていただいた大坪会長率いる佐賀北ロータリークラブの皆様、コ・ホスト校を務めていただいた牛津高等学校インタラクティブクラブ及び佐賀清和高等学校インタラクティブクラブの皆様、その他各関係者の皆様に、改めての多大な感謝を申し上げます。

本当に素晴らしい大会を、ありがとうございました。



開会式

《 基調講演 》

一ノ瀬裕子 氏



アトラクション

佐賀女子高等学校ダンス部



ロータリー第2740地区 2025-2026年度
インターアクト年次大会 Rotary

第1分科会



第2分科会



第3分科会

次年度ホスト校挨拶

唐津西高等学校



米山記念奨学委員会視察・研修旅行報告

米山記念奨学委員会委員長 高谷 信一（長崎出島 RC）

2025年7月12日から13日にかけての二日間、福岡県の柳川から大分県の日田にかけて研修旅行を実施いたしました。米山記念奨学生17名、米山学友5名、カウンセラー関係9名、地区委員4名に加え、米山奨学生のご家族2名の計37名が参加、多少暑い天候の中、充実した時間を過ごさせていただきました。

初日は柳川の川下りや北原白秋の記念館にて歴史を体験した後、日田へ。日田においては普段ではなかなか体験できない屋形船で米山記念奨学生と米山学友の交流会を実施、2日目は豆田町の町並みを散策し日本の歴史を学びつつビール工場の見学を行い、とても暑い中、熱中症の事故等もなく戻ってまいりました。柳川、日田へ足を踏み入れるのが初めての学生も多く、長崎や佐賀とは違う見知らぬ日本の自然や文化に触れる機会を得て、日本を留学先として選択し、また米山記念奨学生として選ばれて良かったと感じたのではないのでしょうか。



特に屋形船での交流会において、それぞれの母国語で乾杯を繰り返し楽しんでいる姿を見ると、これが米山記念奨学事業の真髄かもしれないと思われました。今年度採用の米山記念奨学



生にとっては、奨学生全員が顔を合わせる初めての交流・懇親をメインとした行事ということもあり、奨学生同士はもちろんのこと、米山学友、カウンセラーさんとの親睦を深め、お互いに刺激を受け、米山奨学生として選ばれた喜びを改めて実感したのではないかと思います。

地区の米山記念奨学委員会としましては、米山記念奨学生がその奨学期間終了後も、米山学友としてロータリアンの皆さまとともに奉仕活動が続けてもらえるように導いていくことを一つの大きな目標にしております。今回の研修旅行を単なる思い出としてではなく、その目標達成のきっかけになるよう地区委員会も努力してまいります。また今後、地区行事を行うにあたって、今回の研修旅行を通じて参加者の一体感を醸成できたことはとても有意義であったと確信しております。

米山記念奨学事業は皆さまロータリアンの寄付により成り立っております。当地区における今後の米山記念奨学事業に関わる地区行事等をより充実させることにより、少しでもロータリアンの皆さまに恩返しをするとともに、繰り返しになりますが、ロータリーの精神を学んだ米山学友として世に送り出し、国際理解と親善と平和に寄与していきたいと考えていますので、今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、各集合場所への送迎等につき、お忙しい中にもかかわらずサポートしていただきました地区委員の皆さまとごご家族にも感謝申し上げます。別途、米山記念奨学生のレポートが掲載されますので、そちらもご一読いただければ幸いです。



米山記念奨学生 研修旅行報告書



..... 長崎大学 アハマド イマン ハムザ (長崎西 RC)

2025年7月12日から13日にかけて、米山記念奨学生として、学友会の方々、カウンセラー、そして地区委員の皆さまと一緒に研修旅行に参加しました。訪れたのは福岡県柳川市と大分県日田市の2ヶ所です。柳川では念願だった川下りを体験でき、とても嬉しかったです。また、北原白秋のゆかりの地として有名な場所でもあり、資料館を訪れることで彼の生涯や作品について学ぶことができました。日田市では屋形船で夕食を楽しみ、非日常的な雰囲気の中でゆったりとした時間を過ごせました。ホテルの露天風呂も素晴らしく、心身ともに癒やされました。最終日にはサッポロビール工場の見学を行い、製造過程や企業の取り組みについて学び、大変有意義な時間となりました。この2日間で多くの思い出ができ、皆さまとも親しくなれて本当に嬉しかったです。心より感謝しています。どうぞよろしくお願いいたします。



..... キム ジョウン
長崎国際大学 金 朝恩 (佐世保北 RC)

最近の私の日常は、目を覚ますと薬局の連続でした。そんな私にとって今回の旅行は最近の中で一番大きなエンターテイメントでした。暑い天気にもかかわらず充実した旅行コースにおいしいご飯までたくさん食べられて贅沢な経験でした。特に記憶に残ったのは柳川の屋形船と鵜飼でした。生まれて初めて見る光景に口をつぐむことができませんでした。その他にも日田市の静かな雰囲気やサッポロビール工場など全てのコースが面白かったです。しかし何より大切なのは本当に気が合う良い友達に会うことができたことです。

ロータリーの地区委員の方々の眼識は正確だと思います。30年間、短くない人生を送りましたが、こんなに健康で澄んだ気運の青年たちだけが集まっている集団は初めて経験しました。思いやりがあって肯定的な感情を発散しながらも謙遜な仲間たちのおかげでもっと楽しい旅行になりました。こんな大事な縁に出会わせてくれた米山とロータリーに心から感謝します。



..... イム チェヒ
長崎外語大学 任 彩希 (諫早北 RC)

2日間の研修旅行とても楽しかったです。他の奨学生たちとなかなか会える機会がなかったので、オリエンテーション以降、初めて顔を合わせました。きちんと話し合ったのはこの研修旅行が初めてでした。かなりの人数だったので「名前を覚えらるだろうか」と心配していましたが、いつの間にかみんなの名前を覚えていました。

私は英語があまり得意ではありません。奨学生の中には、日本語があまり話せない人もいました。しかし全く問題ありませんでした。相手と仲良くなりたいという真心は目で伝わったからです。人とのコミュニケーションで最も重要なことは、国籍でも言語でもない、心だと感じました。相手を尊重して、配慮して、いい関係を結びたい！という気持ちがあれば、いくらでもコミュニケーションすることができると深く感じる事ができた貴重な時間でした。

これからある様々なイベントがさらに楽しみです。もう残り半年だけの短い期間ですので、有意義に過ごし、多くの経験と学びと気づきを得たいと考えます。よろしくお願いします。

米山記念奨学生 研修旅行報告書

～米山記念奨学生として柳川・日田への研修旅行に参加して～



..... 活水女子大学 **スウェーナンダ**（長崎南 RC）

先週の12日と13日、奨学金生として他の奨学金生たち、地区員の方々、カウンセラーさん、そして先輩方と一緒に、福岡県の柳川と大分県の日田を訪れる二日間の研修旅行に参加しました。普段はそれぞれの学校生活に追われていて、なかなか会えない他の奨学金生たちと再会し、一緒に時間を過ごせる貴重な機会でした。

初日は柳川で川下りを体験しました。船に乗りながら静かな川を進み、船頭さんの案内で町の歴史や昔の暮らしを学びました。美しい風景と心地よい風に癒され、写真を撮ったり笑い合ったりして、自然と周りの人たちとの距離も縮まりました。普段あまり話すことのなかった人とも、「あ、この人もこんなに明るいんだ」と思えるような発見がありました。

夜は宿泊施設で夕食を共にしながら、学校の話、将来の夢、日本での生活で感じていることなど、さまざまなことを語り合いました。言葉や文化の違いを乗り越えて、同じように頑張っている仲間たちの思いを聞くことができ、私自身もとても励まされました。「私だけじゃないんだ」と感じられたことで、これからも頑張ろうという前向きな気持ちになりました。

二日目は日田で古い町並みを歩き、昔ながらの建物や資料館などを見学しました。歴史ある建物の中で感じる空気は新鮮で、日本文化の奥深さを改めて実感しました。また、道中の移動や自由時間の間にも、お互いの出身国や日本での経験について話がはずみ、さらに仲良くなることができました。

この二日間の旅は、観光だけでなく、人とのつながりを深め、自分を見つめ直す大切な時間でした。今回の経験を通して得た出会いや学びを、これからの学生生活や将来に活かしていきたいと思っています。



..... 長崎大学 **サラスワット バークア**（長崎東 RC）

私たちの研修旅行は土曜日に長崎駅の出島メッセで始まり、同窓生や旧友との再会に感激した。佐賀で他の参加者をピックアップした後、柳川市に到着し、穏やかな船旅を体験した。暑さにもかかわらず、のどかな風景の中で操舵手の魅惑的な歌声に魅了された。また、博物館を探検し、楽しい昼食を楽しんだ。

次に向かったのは、伝統と遺産が融合した魅力的な日田市だ。川沿いのホテルには本物の日本文化が保存されており、私たちは浴衣を着て船上で幻想的なディナーを楽しんだ。景色も食事も文化的な雰囲気も忘れがたいもので、まるで夢のような夜だった。最後はカラオケで盛り上がった。翌朝、私たちは日田市の街をぶらぶら歩き、地元の店やビール工場、博物館を訪れた。それぞれの訪問先で、この街の豊かな文化と歴史が浮き彫りになった。その後、サッポロビール工場の世界的な遺産について学び、有名なビールの試飲を楽しんだ。旅の締めくくりは、素晴らしい環境でのおいしい昼食だった。

この2日間は、学び、つながり、楽しみで満たされ、私たちに大切な思い出と新たな友情を残してくれた。

米山記念奨学生 研修旅行報告書



..... 佐賀大学 リージンイェン（神埼 RC）

米山奨学生として初めて研修旅行に参加し、「知らない人が多い中で大丈夫だろうか…」と不安を感じていました。けれど、バスの中での何気ない会話や、同じ景色を見て一緒に笑ったり驚いたりするうちに、自然と緊張がほぐれていきました。普段はあまり会えない奨学生たちが、全く違う夢を語ってくれたりして、とても刺激を受けました。特に印象に残っているのは、夜に畳の上でリラックスしながら、日本での体験や将来の目標を語り合った時間です。出身や文化が違って、不思議と共感できることが多く、「自分は一人じゃない」と思えたことが、この旅で得た一番の宝物です。

印象に残ったのは、柳川のどんこ舟と日田の屋形船です。静かな川を進む舟に癒やされ、鵜飼ショーでは迫力ある動きに見入ってしまいました。豆田町では廣瀬資料館を訪れ、廣瀬資料館で昔の両替商の様子を体験し、商文化を楽しく学ぶことができました。もともと旅をすることは好きですが、今回のように自然や文化、人との関わりが重なる旅は、これまでにない特別な体験でした。こうした機会をくださったロータリークラブとロータリアンの皆様に、心より感謝いたします。



..... 長崎県立大学 チュウン ホアン アン ゴック（佐世保南 RC）

先日、奨学金のプログラムで大分県の日田へ研修旅行に行きました。今回は二回目の浴衣体験でしたが、やっぱり浴衣を着ると気分が上がり、とても楽しかったです。日中は、川を船でゆっくり巡りながら、美しい景色を楽しんだり、船頭さんの案内で地域の歴史について学んだりしました。風が心地よく、リラックスした時間を過ごせました。そして夜には、屋形船での食事体験もありました。ライトアップされた景色を眺めながら、おいしいご飯をみんなで食べるのは特別な体験で、贅沢なひとときでした。この研修旅行を通して、他の奨学生とも自然に仲良くなることができました。最初から緊張することもなく、様々な人と話したり笑ったりして、とても充実した時間を過ごせました。たくさんの写真も撮ったので、今回の思い出はずっと大切にしたいです。忘れられない素敵な旅になりました。



..... 西九州大学 ブイ ニャット ミン（佐賀大和 RC）

今回の研修旅行では、大分を訪れました。その中で柳川にも足を運び、川下りを体験しました。穏やかな水の上を進む船に乗りながら、地元の方から日本の歴史や文化についても教わることができ、とても貴重な時間でした。

奨学生や委員、カウンセラーの皆さんが私服を着ている姿を見るのは初めてで、普段よりもリラックスした雰囲気の中で、距離が縮まったように感じました。実際に会話をしてみると、皆さんとても優しく、親しみやすい方ばかりでした。

奨学生同士の交流を通じて、さまざまな分野に触れ、新たな知識を得ることができて、とても嬉しく思います。この経験を、今後の学びにも活かしていきたいです。

米山記念奨学生 研修旅行報告書



..... 長崎国際大学 **ウィクラマセネビラトネ ジャニタ アカランカ** (大村 RC)

米山奨学生として、たくさん新しい経験を取りながら様々な立派なロータリーの方からのアドバイスをとっている中で、2024年参加してまた、2025年も米山記念奨学生研修旅行に参加したのがとても嬉しい経験でした。

2025年07月12日の朝みんなと集合してバスに乗った。その後印象に残ったところの中で、柳川の小さい船にみんなで乗ったことである。船会社の人の行動はとても懐かしかった。昔の侍の時代に行ったのと同じように感じた。七人の侍の映画を覚えてきた。

それで、13日、日田の昔の(1860)時代の街歩きはとてもよかった。昔の日本の酒を作っていた場所やおはしの専門お店で日本歴史を楽しく勉強した。このおはしの専門店で私の名前も書いてあるおはしを買えた。おはしをスリランカで全く使っていない道具が、日本に来て大好きになった。おはしの種類、文化、おはしと使っている他の道具などたくさん新しいことを勉強になった。

最後に、日田サッポロビール会社のツアーもとてもよかった。お酒はあんまり飲まないけど、日本の有名なビールについてよく勉強した。最後にみんなで、ビールを飲みながら焼肉を食べて、お土産も買ってから嬉しい思い出をたくさん感じて家に帰った。



..... 鎮西学院大学 **グエン ヴァン アン** (雲仙諫早南 RC)

この度は、米山記念奨学およびロータリークラブの方々からのご支援により、素晴らしい研修旅行に参加することができたことを心より感謝申し上げます。

研修旅行の2日間では、様々な国から来た仲間たちと優しいカウンセラーさんと地区委員の方と共に有意義な時間を過ごし、思い切り日本の文化や料理を楽しみ、貴重な思い出と学びができ、本当にありがたく存じます。本レポートでは、研修旅行で気づいたことや学んだことをお伝えしたいと思います。

互いの国の文化や言語を尊重しながら交流することで、平和な世界を築けるのだと学びました。12日には三隈ホテルの屋形船で和食を楽しみ、各国の言葉で「乾杯」をしました。日本語、ベトナム語、韓国語等、それぞれの母語で「乾杯」と声を上げて、全員がその言葉で乾杯しました。言葉の壁や差別もなく、皆様が同じ家族の兄弟姉妹のように笑い合い、相手の良いところを学び合い、交流を深めて、とても素敵な時間でした。あの光景を見て、「これこそが本当の平和だな」と心から感じました。もし各国の首脳たちがこのように互いを尊重し合うことができれば、きっと戦争が起こらないだろうと思いました。

研修旅行から学んだことは将来を国際交流に活かし、平和な世界づくりに貢献したいと思います。もう一度、貴重な研修旅行の機会を与えていただいた米山奨学会に、心より深い感謝を申し上げます。

米山記念奨学生 研修旅行報告書



..... 佐賀大学 **ダン ニュー クイン** (佐賀 RC)

7月12日から13日にかけて、ロータリークラブのご支援のもと、奨学生として研修旅行に参加させていただきました。今回の旅行は、奨学生同士、OB・OG、カウンセラー、そして地区委員の皆様との親睦を深める貴重な機会であり、また九州の歴史や文化に触れる大変有意義な経験となりました。

初日は福岡県の柳川市を訪れ、川下りや松濤園の見学を楽しみました。古い町並みや美しい庭園、展示された人形や器などの伝統工芸に触れ、日本の美意識の細やかさを実感しました。夜には浴衣を着て夕食を船の上でいただき、幻想的な夜景の中、川のせせらぎと共にいただく料理はまるで夢のようでした。浴衣を着て、船に乗ったり、食事をしたり、カラオケをしたりと、日常のように過ごすのは初めてで、伝統と現代が交差するような面白さがありました。世界各国から来た友人たちと過ごしたこの「日本の夏の一夜」は、きっと一生忘れられない思い出です。



二日目は大分県日田市の豆田町を散策しました。町全体に流れる落ち着いた雰囲気、職人の手による精巧な格子戸、そして色とりどりの下駄に強く心を惹かれました。特に「日本一大きい下駄」と一緒に写真を撮ったことは、私にとってユニークで楽しい体験でした。その後訪れたサッポロビール九州日田工場では、ビールの歴史や製造過程について学びました。実は普段あまりお酒に興味がないのですが、その場で味わったサッポロビールは特別に感じられました。まるでただの飲み物ではなく、その背後にある物語や情熱まで一緒に「味わって」いるようで、初めて「飲むことの意味」に触れた気がしました。

旅の間、仲良くなった韓国人2名、ミャンマー人1名、そして私の4人で「4人娘」と呼び合いながら過ごしたことも、素敵な思い出のひとつです。このような国際的な友情を育めたのも、ロータリークラブの皆様がこのような機会を設けてくださったからだと心から感謝しております。

また、地区委員やカウンセラーの皆様ともたくさんお話しすることができました。面接やオリエンテーションの時は少し緊張していたのですが、今回の旅行で皆様の意外な一面を知ることができ、とても親しみを感じました。中にはベトナム語バージョンの「乾杯」が大好きだという方もいて、国境を越えた文化交流の温かさを実感しました。

今回の研修旅行を通じて、私は日本の文化や人々の心にさらに触れることができ、自分自身の



視野も広がったと感じています。そして何より、ロータリークラブの皆様が私たちを支えてくださっていること、その温かさと期待に、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に、この素晴らしい機会を与えてくださった全ての方々に心より感謝申し上げます。また皆様にお会いできる日を楽しみにしております。そしてそのときは、ぜひまた一緒に「1,2,3, ぞー! 2,3, ぞー! 2,3, 飲もう!」(ベトナム語バージョンの「乾杯」です!)



..... セツ シュン 西九州大学 薛 春 (牛津 RC)

楽しみにしていたロータリー米山記念奨学生の研修旅行は非常に有意義で楽しかったので、あっという間に充実した2日間が過ぎてしまいました。今回は日田・柳川の地域活性化や伝統文化の継承にかかわる取り組みを観察し、自身の学びと結びつけるきっかけを得ることを目指しました。

7月12日に柳川の水と文化に触れ、柳川の「川下り」体験を行い、江戸時代から続く用水路整備が、現在の農業や観光を支えている様子に、「先人の知恵が地域を豊かにする」と実感しました。

7月13日に日田の伝統と活力を学び、「古い建物を活かした工房」が若者に人気のことから、「伝統を守りつつ新しい価値をつくる」地域活性化の取り組みに感動しました。

今回の研修旅行を通じて、「地域」と「人」の関係について新たな視点を得ました。柳川の水や日田の町並みは、単なる観光資源ではなく、長年にわたる人々の努力と協力が結びついた成果であり、これは「米山記念奨学が奨学生を支援し、奨学生が社会に還元する」循環と通じるものだと感じました。特に、奨学生同士の交流は貴重な経験でした。異なる専攻や背景を持つ仲間と意見を交換する中で、「多様性を尊重しながら共通の目標に向かう」重要性を学びました。

今後は、この研修で得た「地域とのつながり」「仲間との協力」を忘れず、米山学友会の活動に活かしていきたいと思います。

米山記念奨学生 研修旅行報告書



..... 佐賀大学 ^イ章 ^{カセイ}嘉城 (佐賀北 RC)

このたび、米山奨学生として研修旅行に参加しました。今回は妻と娘も同行し、貴重で忘れがたい体験ができました。

初日は福岡県柳川市で乗船して、柳川市の美しい風景を楽しみました。昼食には名物「うなぎのせいろ蒸し」を食べて、丁寧に焼き込んだ蒲焼がとても美味しかったです。その後、北原白秋の生家と記念館を見学しました。北原白秋さんの生まれ育った環境やエピソードが分かりました。晩御飯は屋形船で、落ち着いた雰囲気の中、食べながら景観を眺めた。さらに、400年の歴史を受け継ぐ、「水郷日田」の鵜飼が近くで見られて、とても印象に残りました。二日目は日田市の豆田町を散策し、江戸時代からの町並みをみました。最後はサッポロビール九州日田工場見学です。サッポロビールの歴史、ビールの製造過程、ラインナップなどを見ました。昼ご飯は焼肉で、ビールと焼肉は最高です。

家族とともに学び、味わい、歴史を体験できた二日間は、かけがえのない思い出となりました。娘が大きくなったら、写真を見せながら思い出を語ってあげたいと思います。



ガバナー公式訪問クラブ報告

鹿島 RC 会長 角田一美
7月15日(火) 幹事 荒木範光

7月15日石坂ガバナー、馬渡ガバナー補佐、中島地区幹事、徳川地区副幹事、太田副事務局長、当クラブから花島パストガバナー、角田会長と鹿島市の祐徳稲荷神社神殿におきまして、2025-26年度2740地区会員、及び当クラブの繁栄を願い参詣いたしました。ガバナー公式訪問は光栄なことに、毎年鹿島からスタートされ各クラブを訪問されます。いわゆる鹿島立ちであります。

割烹清川に到着後、ガバナー、ガバナー補佐、地区幹事と当クラブの会長、パストガバナー、幹事、会長エレクトを交え和やかに懇談会を開催致しました。

例会では、石坂ガバナーから「未来へ紡ぐ」の信念の元に、13項目についての地区方針を御教授頂きました。

例会終了後の、ガバナーと会員との語る会は、今抱えるクラブの問題点等、語りたい会員が多くて少々時間オーバーとなりました。

これから10月まで50数か所の暑い中での公式訪問です。明るくて元気な石坂ガバナー、随行の地区の皆様、健康に留意されて全行程が無事に終わりますようにお祈り致します。



唐津西 RC 会長 山下正美
7月16日(水) 幹事 山下善太郎



7月16日(水)に石坂和彦国際ロータリー第2740地区ガバナーの公式訪問を受けました。地区内の54クラブで2番目に早い訪問でした。

辻幸徳ガバナーエレクトが2月に急逝されただけでなく、国際ロータリークラブの会長候補が6月半ばに交替し、急遽、イタリアのフランチェス・アレツツオ氏が会長に就任されるなど、ロータリーの基本に係ることで混乱の懸念がある中で、新年度早々にガバナーをお迎えできたことはありがたいことでした。

会長、幹事とも初めてのことでしたが、地区幹事の中島幸利氏、ガバナー補佐の小林哲氏ともお互いに顔なじみであり、和やかに懇談できたと思っています。

この公式訪問でのガバナーの講話などを今後の唐津西ロータリークラブの運営に活かしていきたいと思っています。

ガバナー公式訪問クラブ報告

佐賀 RC 会長 吉原崇己
7月17日(木) 幹事 小原晴義

7月17日(木)、石坂ガバナー、古川ガバナー補佐、中島地区幹事をお迎えし、ガバナー公式訪問例会を開催いたしました。

例会前の懇談会では当クラブから、吉原会長、古賀会長エレクト、幹事である私が出席しました。クラブ運営について会員増強の重要性や各事業の継続性の在り方など様々な事柄について意見交換させていただきました。今後の佐賀ロータリークラブの活性化へ繋がっていききたいと思います。

例会では昨年度の事業報告そして今年度の運営方針やポリオ根絶について熱く語られ会員皆様の理解がより深まったように感じられました。また例会後の『ガバナーと語る会』では新会員を中心に忌憚のない率直な意見交換を実施させていただきました。石坂ガバナー並びに地区役員の皆様の訪問に感謝申し上げますとともに今後のご活躍とご健勝を祈念いたします。



佐世保南 RC 会長 下津浦正明
7月18日(金) 幹事 北村孝輔

佐世保南RCとして、創立70周年に向け、現在64名の会員を70名にすることを掲げ、若手や三役候補者の人材育成も図っていききたい。

また、退会防止策として、新会員オリエンテーションも行う。会員の連帯や親睦を目的として、月例の委員会や年2回の旅行を計画している。また、国内外に友好クラブを5つ程度拡大したい。

事業活動として、米山記念奨学会の事業への参画を継続中、国際青少年交換事業は予算不足で一時取り止めているが、将来的には再開したいと考えている。新たに職業奉仕出前事業として、小学生を対象に「なりたい自分になるために」をテーマに会員が職業講話を実施、好評だったので拡充して継続する。

地区補助金事業は、佐世保市内の子ども食堂団体に米の寄贈を計画している。

最後に、若手に地区活動に積極的に参加してもらい、RCの意義や会費の使途を理解してもらいたい。



第 2740 地区 職業奉仕委員会新聞

発行：職業奉仕委員会
2025 年 令和 7 年

参号

第2740地区 新聞
職業奉仕委員会

ポールハリスはロータリークラブ設立に際して「Trade and Talk club」と名付ける案もあったそうです。その「事業主の集まり」であるロータリーは、1907 年に Community Service Activities（社会貢献活動）を始め、1908 年に「Service の科学」という経営学の実践を奨励しました。

前者は Community（地域社会）への貢献（Service）ですが、後者は事業主の Society（利害関係者）への貢献になるため「Community に貢献するのか、Society に貢献するのか」という対立が起きました。そこで、ロータリーは「全ての人に貢献する」ことにしたのです。1922 年ロータリーは「ロータリアン夫々（おのおの）が、自分の個人生活・職業生活・社会生活に、The Ideal of Service という原理を適用する」という Philosophy（哲学）を創りました。そして「この哲学を世に広め、また、この哲学を貫く」という Movement（運動）を始めました。

この運動は Community Service と名付けられました。梅吉翁は Service を「サービス」と訳しましたが、1934 年の外国語禁止提案によって、これが「奉仕」に書き換えられたため、Community Service の和訳が「社会奉仕」になってしまったのです。つまり、これと「社会奉仕活動」と訳されている Community Service Activities（1907）とは全く別のものなのです。

「決議 23-34」の序文の和訳には「ロータリーにおいて社会奉仕とは、ロータリアンのすべてが個人生活、事業生活、および社会生活に奉仕の理念を適用することを奨励、育成することである」とあります。しかし、何かを奨励、育成することが「社会奉仕」でないことがわかります。

これは Community Service（社会的サービス）の定義なのです。

職業奉仕委員 岩谷 正彦

職業奉仕 WEB ラーニング 参加者募集

2025-26 年度 7/16、9/17、11/19

水曜日 19:00 より 20:15 まで

職業奉仕の基礎を一緒に学びましょう。
参加には事前申し込みが必要です。➡



こちらの勉強会はメーキャップ対象の研修会となります

国際ロータリー 第2740地区 2025-26年度

地区大会

つむ
未来へ紡ごう
ロータリーの価値！

2025-26年度 国際ロータリー
第2740地区 地区テーマ

2025年

10月24日(金)・25日(土)

本会議会場 唐津市文化体育館

懇親会会場 唐津シーサイドホテル

地区大会プログラム

大会1日目

10月24日(金)

●16:00～17:30

研修セミナー 長谷川 權 氏

●18:00～20:30

RI会長代理歓迎晚餐会

会場：唐津シーサイドホテル

佐賀県唐津市東唐津4-182

TEL 0955-75-3300



大会2日目

10月25日(土)

会場：唐津市文化体育館

佐賀県唐津市和多田大土井1-1 TEL 0955-73-2888

●10:00～12:00 … ロータリーファミリーの集い(文化ホール)

●11:15～11:45 … 登録受付・歓迎コンサート

●12:00～13:35 … 本会議「第1部」

●14:00～15:30 … 記念講演会 (パネルディスカッション)

講演テーマ「世界からみたロータリー」

片岡 一生 氏

●15:40～17:10 … 本会議「第2部」

懇親会場へ移動

●18:00～19:45 … 懇親会

会場：唐津シーサイドホテル 佐賀県唐津市東唐津4-182
TEL 0955-75-3300



大会3日目

10月26日(日)

● 7:30～ 記念ゴルフ大会

会場：唐津ゴルフ倶楽部

佐賀県唐津市菅牟田64-1

TEL 0955-73-2933



からつ勘右衛 (かね) 話



【第3話 ホラ吹き】

今日は、かねとんの、法螺吹きの話ば、しゅうだい。

ホラ吹き仲間の肥後(熊本)の彦兵衛と佐賀の安兵衛、そして唐津の勘右衛が集まってお国自慢を始めました。安兵衛が「佐賀にゃ大昔、そりゃ〜大きな楠の木があつてな。その影は、お日様が出ると、武雄の先の有田まで、夕方には鳥栖まで伸びていたそうだ」と話すと、彦兵衛は「肥後の阿蘇には大きな赤牛がいてな、その牛は歩かず向きを変えてだけで肥後の野原の草を食べ尽くすことが出来た」と自慢げに言いました。2人の話を聞いて勘右衛は「唐津にゃ、大きな太鼓がある。その太鼓は安兵衛の話した佐賀の大楠を丸切りにして中をくりぬいて、彦兵衛の話した赤牛の皮が張ってある」と言いました。彦兵衛と安兵衛は「その太鼓なら、さぞ大きな音が出るだろう。ひとつ聞かせてもらおうか」と勘右衛に注文を付けます。2人はこう言ったら勘右衛が困るだろうと思ったからです。しかし、勘右衛は待っていましたという顔をしてこう言いました。「いや、そん太鼓ば打つと、九州だけじゃなく遠い唐国まで響いて、耳のおかしゅうなる人は出るし、海が荒れる心配がある。やっけん殿様から「打ったらいかん」と厳しい命令が出とる」それを聞いた2人は「勘右衛の法螺話は上手かばってん、その逃げ方も日本一うまかバイ」と言って大笑いし、3人仲良く酒を飲み交わしました。

今日の話は、こいばっかい。

(富岡行昌 著 『かねばなし』より)



編集後記

夏の名残を感じつつも秋の気配が漂う季節となり、表紙も秋桜の絵となりました。ガバナー公式訪問も後半へ入りました。各クラブの皆様のあたたかい歓迎に感謝申し上げます。いよいよ10月24日(金)25日(土)は、国際ロータリー第2740地区2025-26年度地区大会です。唐津、一丸となって準備にとりこんでいます。気温の変化が激しい時期ですが、皆様御自愛いただき、より多くの参加を願っていますので宜しくお願い致します。

月信委員 石本 修一

国際ロータリー 2740 地区
ガバナー事務所

〒847-0012 佐賀県唐津市大名小路1-54 唐津商工会館地下1階
TEL 0955 (53) 9061 FAX 0955 (53) 9062
E-mail : ri2740tsuji@vc.people-i.ne.jp

WEBサイト▶

